

鳥取大学地域医療総合教育研修センターでの 取り組みについて

私たちの専門は、住民の「生活」であり日野という「地域」そのものです

私たちは鳥取大学地域医療総合教育研修センター（日野病院内）を拠点に日野町内で活動していますが、時々、「先生方の専門って、何ですか？」と尋ねられます。

私たちは日野病院総合診療内科医師として病気を診ていますが、「Aさんの〇〇病」、「Bさんの△△症候群」ではなく、Aさん、Bさん自身と、暮らす地域そのものをどう診るかが私たちの課題であり、目指すべき専門性でもありと考えています。さらに、ご家族、行政とも協力しながら、地域の健康増進、予防など幅広い役割を担っていきたいと考えております。

そのために、白衣を脱ぎ地域に出かけて、生活に直に接する必要があると考えました。1年前から『ぼかぼか教室』、『おしどり学園』などの健康講座、料理教室などに参加して、健康上の問題、疑問点などに耳を傾けています。話しの中で、「この田畑を守るのは自分しかない。だから、認知症などにならないよう、末永く元気である方法を知りたい。」などの切実な疑問が聞かれます。このよう

な質問にきちんと応えることが、地域を診る私たちには求められていると感じています。

現在、黒坂地区の住民さんにモデル地区として協力いただいています。暮らしに直に接しながら、健康問題の解決、地域づくりにもかかわるよう、計画しています。8月下旬から10月にかけて、医師・看護師を目指す学生たちを連れて、黒坂の公民館やご自宅に訪問したいと考えています。よろしく願いいたします。

鳥取大学医学部地域医療学講座

准教授 浜田紀宏



町内の公民館にて

医学科6年生の臨床実習を行いました

5月18日から8月7日まで、日野病院に鳥取大学医学部6年生がやってきて、総合診療内科外来を中心に研修を行いました。医師として働き出す前年に、病院実習の総仕上げとして外来診察を行っていただきました。

これまで外来診療をしたことのない学生たちでしたが、四苦八苦しながら、教科書通りにはいかない、実際の患者さんを診察する難しさを実感してくれたように思います。

これまで学生が受け身で研修することの多かった医学教育ですが、学生が責任感を持って診察するという意味で一歩進んだ教育の場として研修センターが役に立ったのではないかと思います。

学生が丁寧に問診し診察するなかで、患者さんには時間がかかり過ぎてしまったりすることもあったかと思いますが、ご協力ありがとうございました。実習後アンケートを見てみると、学生たちはみな地域医療の醍醐味を感じてくれたようです。

鳥取大学医学部地域医療学講座

助教 朴大昊



実習のまとめ会(日野町、病院の皆さんと)